繪本通俗三國志 前編 元

東京圖書館

和書門	小說類	二六函	六架	七八號	七五冊

TOKIO LIBRARY
東京市立図書館

繪本通俗三國志初編卷之九

目録

明治十年交換

曹操定陶破呂布
李傕郭汜乱長安
楊奉董承救御駕

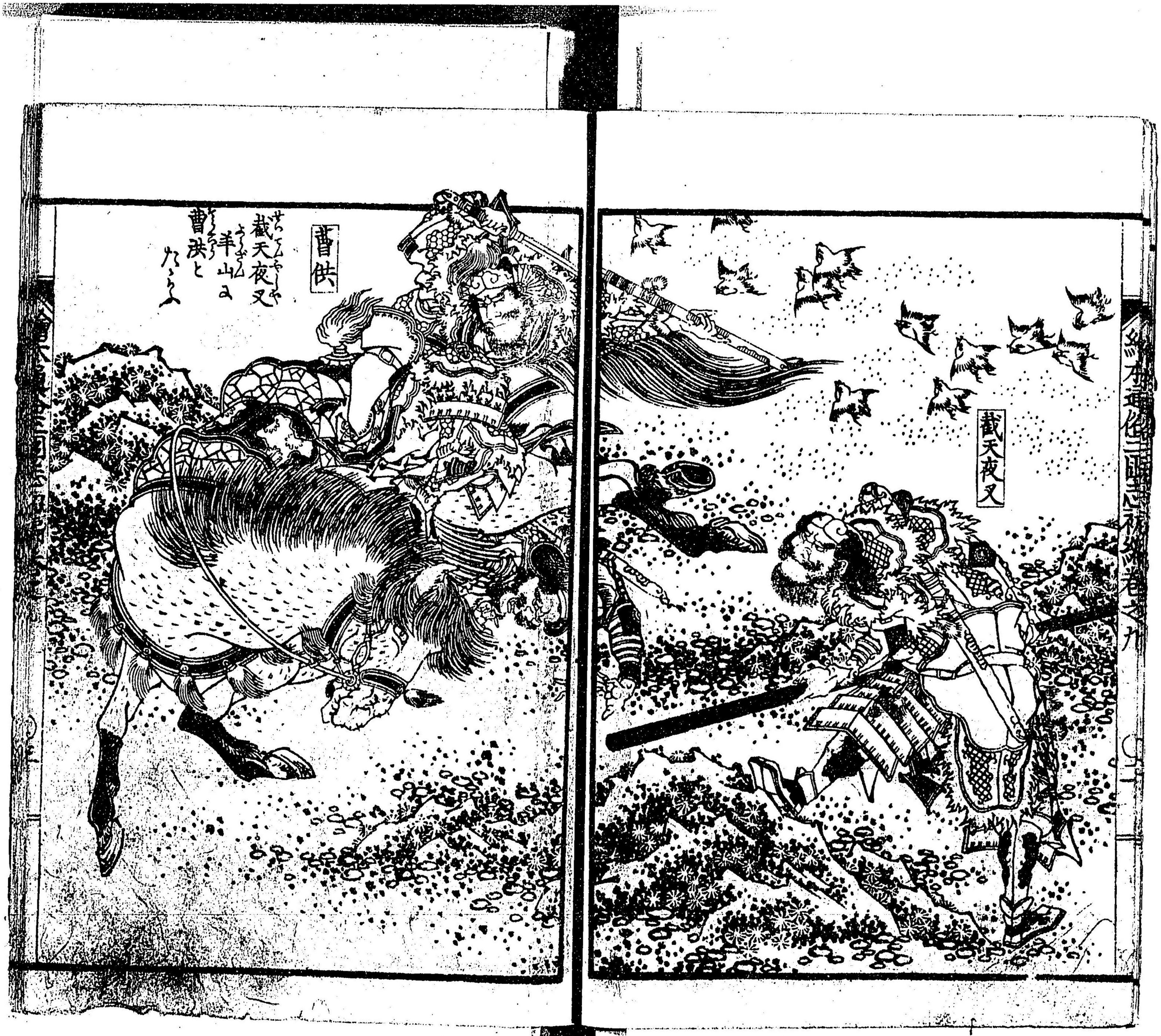
繪本通俗三國志初編巻之九

曹操定陶破呂布

徐州の太守陶謙死し。劉玄德その讓を受け。自ら徐州の牧と称しける。其聞へありて曹操鄄城よりして此ことを聞き大に怒り。すでに父の讐いまだ報ぜざるに陶謙も死せり。玄德半箭の力をも費さずして。坐ながら徐州を横領せり。すでに玄德が首を斬。陶謙が塚を掘て。その屍を市に晒し。父の寃を雪べしとて。大に打立んとしける。或諫ていはく。昔し漢の高祖は関中を保ち。光武は河内に據て根を深くし。本を固くして天下を制せり。是故に進ては勝。退ては固く守る。なまじひに事を仕損じても本国を

遂に大業を清定り。今君事と兗州より攻めひ。河濟
ところのもち天下の要害。ならま亦昔しの関中河内なり。そもそも
徐州と攻て。ろぐく兵と起しめつ。呂布虚に乗て兗州を
取ん。兵と多く留めて兗州を守らしむるとも。徐州より攻る勢
小勢なるく攻ぐ。萬一兗州と奪ま。又徐州とも取るあ
いざるとも。君何くなる身と容ぶんやとて陶謙死ときいえぶも
玄徳よく國と守る。城中の軍民をみ其徳なるに命を
ととんすと願。今兗州とも徐州を取ん。本をもとく末を
取。安と仮く危と換るなり。ねがはくは君よくらまと思ひ。曹
操が曰ちろぐらの山羊打はぶひと。兵と粮ものみ粮足ど。你らまを
いぶせん苟彧が曰まに陳の國と攻取く。兵粮の資を。汝南

潁川より黄巾の餘黨。何儀黄邵といふたの蜂起ことを承
ひまぶ打向く攻平げ其貯く置なる物と取く味方の資
用となひとたひ。天子の為に忠をとく。萬民の為に害を除て。
ちまを天理に順ぐふの道なるべ。曹操大によ法ちび夏侯惇
曹仁を留めて。兗州と守らせ。十二月より打立て。まづ陳の國
と屠取。なぐちに汝南潁川より向。是ぞ黄巾の賊徒。何儀
黄邵といふたの二人。十萬余の惡黨とあはせて居るを曹操
が寄ると聞て。羊山まで打と出。野より満山に漫ちて陣を取と
いへども。惟ちを狐群狗黨の溢ことのなれば隊伍行列の備
もなく。紀律法度の定もなし。曹操ちを見て打ちとんと
〻。強弓の精兵をそ以て真先にとて。兩の降ぞくに射


截天夜叉
羊山の
曹決と
曹供
截天夜叉

せて敵の色めくを典韋よ命じて蒐散させ討
たの軍をもって賊軍多く亡びて蛛の子とちらしごとく右往
左往よ落ち行。曹操勝に乗て追蒐羊山に逼りて陣を肌け
まる。次の日賊の陣より身の長九尺ありて髯長く色あくまで黒きを鉄の棒を提さげ馬よも乗ず
ヒロ一人ときを出大音あげて名乗りて日ごろ天下に隠れ
なき天夜叉何曼といふ者なり曹操に何くまるあり快く
出て勝負せよと呼ばりて曹操ときを見て李典出よと下
知とりよ曹洪ときみ尖ねがくるを某よ此賊を討しめよといを
ずと馬より飛び下り刀を提さげて出向ひ二人ときと戦ふ
ごろ二ときあまりよ分きざりて曹洪詐りて

引退ぞくに何曼急よ追来ると引回しとはとと斬ておとりて
るを追ひて返と刀よ腿を斬ひれば截天夜叉ほるよ沙の上
よ倒れ死ときを見て李典兵を引て直ちよ賊軍よ突と
入四角八方へ蒐ちらし大将黄邵と馬の上よて生取りまる降
人よ出るとの数とをぐ兵粮金帛をぐくとふをり賊将
何儀黄邵が討をたると見て力と失ひ二百余騎
と引て葛陂の堤を落行るよ山の間より一手の勢討て出
身の長八尺ばかりある壮士の容白く勇偉なるが真先よ
来て讒図の人よ許褚字は仲康といふものの路を塞
討止んとしれば何儀大よ怒り鎗を拈て戦ふこと
褚引組て馬より下よ落ちて働らきぶ壓を縛

掛なりける。相従ぐの百余騎ろ勢地よ拝しと降らんと請りそを。許褚ぐ引回る。典韋い浩ととちぐ。何儀と追はりく討んとて。葛陂ろ堤まと来りるわよ。賊と出ぐ。你ホい黄巾の賊とたなとと問よ。許褚合と勢計く出ぐ。黄巾の賊百余騎とぐく擒よと。典韋ぐ曰ちらやるる。黄巾の賊百余騎とぐく擒よと。典韋ぐ曰ちらどなんどるぐ君よ献まるらざる。許褚あぐ笑と曰くるを何のめえあると。人よ献まりらん。你をしるぐ手の内の刀よ勝べ。その付よ献まるべ。典韋きるもあぐど戦とまへと討とる。二人辰の刻ずり午の下りまど戦ぐも。勝負さらよるるきど。まぐらく息と休ぐく。許褚又とるべば典韋も馬と出ぐ。申ろ刻ずり暮よいるるきど。人をらと戦ぐるぐびよ馬ほら

きれれぐ勝負へ明日こ約束と。相引よ退ぐきる。曹操よ後陣よあるく此すと聞。人よるぐ沒ひと。諸大将こ馬と飛と馳来り。次ろ日許褚が来ると見よ。その自天神のど。威風凛こりりれぐんろ内是者と味方よなるんと思ひ。典韋よ討と。と授と。許褚負と退ぐけこいの。らきるすると典韋三十余合戦ぐひ。馬とうと。て走りるきど。許褚急よ追来ると。曹操となるち。射手と出と散てよ射。許褚らきと見と退ぐきる。曹操。その夜陣の外五里よ。深き陷穴とほらせ熊手と使へと伏おき。次の日典韋よ百余騎と付く戦ぐ。許褚らきと見と馬と飛と来りるきど。典韋戦ひ三合なくざる。許褚よ。詐りく逃そる。許褚らきと追く馳るきど思ひ。

ど馬に乗ながら陷穴に落入る。伏勢に熊手に掛て生取る。曹操自らその縄を解衣服とあらため名を問に許褚なりと云。某は譙國の人に許褚字は仲康といへるなり。天下乱をさけて一族数百人とともに辺に逃まよ居。さきごろ動もすれば強盗に悩やまされて安きことなし。ある時強盗入ければ某手のものども大石をあたへさせて自ら散こに投掛に賊徒をみな打ひしぎて逃さまり。其後は賊と和睦しとある日某が家の牛と馬の米に代んとて米をもとめに来る賊徒牛を引とりて如何したりとて牛をも逃てしりぞき来る。某追ほいて二月の牛を左右の手に尾を持百歩ばかり引もどる。賊徒その力に怖きたりて牛を取返して

入り去りぬ。母の業となし無事なることを得たりと語りけるを曹操聞て曰ふ汝不名と聞り。今より降らんや許褚いへり。ねがはくは一族と共に降らんとて。ほどなく数千人を率て来りぬ。曹操大に喜び何儀黄邵を首として路次に斬り梟させて。汝南潁川ことごとく平らぐ。時に興平二年夏四月に軍を收めて山東に陣を取りまもる曹仁鄭城より夏侯惇を使として兗州を守る呂布が大将薛蘭李封ホとごとく忠義なる諸侯に打散て民を劫やうし城をもまもる勢いそなはず寡なし。ここを推よせて其備なくば。敵らんと掌の内にあり。曹操ここを聞てさらば汝

直ちに兗州の城に赴くべしと。薛蘭李封あらそいなげき。
俄かにうちのりて勢をあらはすべきなり。まづ城を出て陣を
張るべし。許褚さらばと見て。某ねがはくは是敵を討て。君の
恩に報ぜんといふまゝに。刀をまいて出れば。李封鎗をひねつ
て馬をすぐべし。一合に斬て落す。薛蘭これを見てあとをも
ふのぎ。一戦にもあらぬに。城中へ逃へんとしたまふ。壕の辺にて李
典一文字に路を遮ぎる。是をみて城に入るあらんと。鉅野にむ
かひて走るなり。曹操路をよこぎりて。従事呂虔といふもの。
ちらくと馬を蒐よせ。ひつ引くく射たりければ。薛蘭さうさまに
なに落て死にけり。ちらに兗州をとりて。曹操に属しぬ。
程昱ひとりの叫勢に乗て。直ちに濮陽を取る。

曹操ちらくべしとて。許褚典韋を先手として夏侯惇夏侯
淵を左備へとし。李典樂進を右備へとし。于禁呂虔を
後備へとして。濮陽に発向と。呂布これを聞て兵をそなえ
自ら出て戦らんといふを。陳宮諫めていはく。軽くして出
ふとなりて。曹操兗州を取て。その勢ひさかんなりとて
らく味方の大将を待て後へと。其後に戦ひなば。呂布が
曰ふを天下に懼るゝなり。誰かあるべく近ばらんを自
ら城外に討て出大音あげて曹賊なんぞ大将をこ
なたへ呼かけるを。許褚力をまはして討とる。呂布大
に怒り。二十余合戦ひてきば曹操これを見て呂布に中
て一人と敵ぐべし。典韋出よと下知をなす。典韋きこゝに肯

ど鉄の戟を提さげて奮出許褚と力をはくして両傍より戦
うべども呂布らまを事をせずして又曹操が陣より夏侯惇夏
侯淵左より進み右よりとをけるを呂布力およ
ばず城へ逃入んとするを城の上より田氏ありて呂布がう
ち負たるを見て壕の橋をひいたりければ呂布門を開けと呼ハ
りけれども田氏矢倉より大音あげくるをとがめて曹操よりの
城を献ずるを你が何くへも落行とらふ呂布牙をかみて
く罵りて立たりけるが定陶をさして落行ける。
陳宮ハ事の変をうけて。呂布が妻子一族をたすけて東門より逃
き出たるを曹操はるゝ濮陽城を取て。田氏ハ旧主の恩を肩
に士卒を労らひ百姓を安んじけるを劉備聞て呂布ハ

猛き虎なり。今さいはい力をぼ。此機を乗と追討ゝ。
曹操是義なりとて。你ハ守をとゝ。自ら大軍を引
て定陶へ追て行。呂布ハ定陶城へ入。陳留の太守張邈
の弟張超と敗軍をあはれむ折ゝ兵粮の用意調のゝざりしを
高順張遼ハと諸處より分ち。兵粮を運送せむ此時
曹操が大軍をもゝに推よせ城を四十里へだて陣屋をうま
青麦を刈て兵粮の資とするを聞へくをゝ呂布急よ
よせ曹操が陣へうちよ深くまぎれ入る林あるをゝ
伏勢やあらんと疑ゝ空ゝ引へ
り。曹操ハまをとうと諸大将ハ向とゝ呂布戦ハ
と引退ぞ。林の内ハ伏勢あらんと疑ゝ

き量るに林の内に少く旗ぢるしを結はせ両の方の堤に牽かせ水をのみまぶ精兵と其陰に伏あらん明日呂布来らば林の内に火を掛べし。その火を思ひよらば益く討て出て敵の後を問べし呂布うなづき摘さるべし」とて陣屋の内に鼓と打ての五十人をさだめあり近辺の百姓とりこへて鼓と打ふめ叫んだ。大勢あるもりなる体となし」むし呂布いむ〳〵引退ぞひて陣宮と討とと議とるに陳宮申るに曹操い詭りの計を極めて多し。軽〳〵仕おらば大なる破きあらん呂布曰ふ何を曹操と怕きん。明日林に火とはけて彼が伏勢と焼破らんとて。次の日陳宮高順をさだめて城を守らせ自ら大軍と引て討とて林の内と望こりんるに旗幟少く立て風に

るかつて見へりきたる兵へを駆て大まとに四方より火と掛とて。とぐく焼たらひしるども敵一人も見へざる。陣屋の内に鼓のまえ大なひびいて。喚きさけぶらえたなべ」らぶ〳〵凝がとてきぬさるるわ。陣屋の後に一手の勢出てを見て。急に追掛て討んとてきぶ合図の鉄炮をなら」て。堤の陰より伏勢一度におこり。夏侯惇夏侯淵許褚李典楽進曹章十騎の大将馬とをぶ」て討とる呂布大におどろきあわてふためき走りぬ大将成廉とぶに楽進に射られて。討るその枝をぶ」ど。陳宮にこを聞て。とく〳〵と孤城守りぶ」早く出て走ぶ」とて。高順と妻子老小とをたとけて。まきさをとと落行るまぶ。曹操勝に乗て城中に攻入その勢ひ破付のぶ」大半張

逃げ。くのごとく袁術が方へ落行。弟の張超へ自害さ
せ。焼死しぬ。ときより山東の一境。とぐく曹操に従ひ
まこと。民と安んじ。城をうつめ。かや諸國の勢をあはせる

李傕郭汜乱長安

呂布へ定陶を追出さまさんぐよりうつ走りうるぶ。路より陳宮
諸大将を引く追ひたらぶ。再び敗軍をあはせ。海濱より屯
し。曹操と雄雄と決せんと議さらん。陳宮ひろう。今曹操が
勢ひは大なりとも。戦うひとすべし。身の置所を求
めんとぬく時と待ん。呂布が曰く。何ぞ身を安んじべき。陳
宮が曰くちかごろ劉玄德徐州を領ぜ。行て此人を頼まん。
ちからく気力をやしなひ。又兵を起さば。呂布ぞ従

ぶ。直ちに徐州へ赴くべきなり。玄德ぞ聞て。呂布へ當
世の英雄なり。ままと自ら出てむかへんとひめふ。糜竺諫めて申す
ぶ。呂布へ虎豹なり。引入れ人とならん。玄德の曰ぞ呂
布が充州とせむるにあらざるべ。曹操いかでぞ。是困の囲ことを解
んぞ。徐州を得ぞ。実に呂布が力なり。彼をもて徐州を望
まば。ままとなすべ。議りあへんいかん。彼そのこと何ぞ疑
ぶことあらんぞ。数千の兵を引て。城外三十里出むかへ。呂
布禮とあつと。城中へ入ぞ。董卓を討とすり。又李傕郭汜
が変ぞあるべ。関東へ流浪ぞ。充州を取べ
徐州の用とべ。今ぞらざる曹操が討とて落さば。身の置
所なとべ。ねがはくは力とをくしたまへ。再び漢室

と與へべしといひけれバ玄徳の曰く。陶謙あらそひて逝去して。徐州を領すべき人なし。さいはひ将軍この所へ来り給ふ。古しへより徳ある人に國を讓る。将軍ねがはくは是國を領し給へ。呂布心の内大によろこび。ぱらく見れバ玄徳の後に立たる関羽。張飛目をいからして。手に剣を按んとする気色あらはれけれバ。佯りて打わらひ。それがしハ一人の勇夫なり。なにとてぞよく此國を治むることを得んと申されけれバ。玄徳再三讓りけるに陳宮さゝやきけるハ強賓圧主といふ言あり。玄徳公うたがひ給ふなかれと云ければ。玄徳酒宴を設けて待なし給ふ。呂布客屋にかへりし次の日。玄徳をまねきければ関羽張飛とゞめけれバ呂布昨日をもて徐州をゆづらん

ありさまいかにも無礼なり。行かんには玄徳の曰くまさに実の心を以て人を愛せバ人なんぞ我にそむかんやとて。ゆくに呂布が館にいたれバ呂布酒宴を設けて後堂に請じ。妻子を出して再拝せさせけれバ玄徳慇懃に禮をなしけるに酒半酣に及んで呂布玄徳の手を執てわれはかゝる此所に身を寄て賢弟の恩を受ることを云ければ張飛これを聞て目をいからし。剣を抜てわれハわが兄ハ金枝玉葉漢の天子の至親なり。你ハたかが一人家の奴なんぞわが兄を賢弟と呼ぞ我決よく三百合戦んといひしめにすゝむを玄徳急に住めたまへて関羽引て外に出ぬ。玄徳笑て我が弟酒をのみて狂言する。将軍あやしみ給ふなかれと宜まへバ呂布黙然として言なし。

ちゞらくあうて玄徳久りゆく。呂布自ら門外に送り出る。張飛馬と躍らせ。鎗とよまたえて。呂布出よ。そもゝこゝろよく三百合戦らんと呼ばりけるに。玄徳引さうりゆく。次の日呂布来りて暇とらひ。何方へゆくとも行うんとひらくと玄徳ちひさく止め。そゞ弟の並禮とうるべくんうけゆかなとて。張飛を召て。呂布と持なせとひゆへ。張飛目といらしこと。呂布と睨て。牙と噛て立てりけり。玄徳せんうなく。此ところに小沛そと一ての城あり。そこに我ホゞ居しもあり。分内せどくいひどゞも。将軍ちゞらく行て守りゆへ。軍馬兵粮の備もあらまほし用意ひとらひゆへ。呂布拝謝して小沛の城にゞ蠶りる。此ところに曹操が汝南潁川の賊徒と平らげてうよ。長安へきてらくゆきゆ

び。朝廷ちまとと賞しと。建德將軍費亭侯に封じゆ。李催郭汜もいとく逆威とぬゆ。朝廷の上に横行しうばんのまに政を行ゆ。さまゞゝ百官その其威と怕まて。言と出ものもあり。太尉楊彪。太司農朱儁二人ひとに帝に奏とうる。今曹操四十萬の兵とあるとて。謀臣武將数百人を用もて。ひとりの勅しと逆臣と伐しめむ。社稷再び興りき。天下のさひ甚しゞらん。帝御涙とさゝく宣ひうる。朕うくゆゞく。李催郭汜が凌しめにあうて。惡虐のはなゞゝしき。董卓よりもとゞまり。日夜心を苦しめく。行坐とも安うゝび。朕おまとまのゞらんと思へゞゝ。はゞまりとべゝ。討とゆ。楊彪が旨。臣一ての計とあり。まゞ李催と郭汜と同士軍とさせく。その後曹操

と召べ。天下忽まち平らぐべし。帝問て宜まく。你いかゞ計を用ひん。楊彪が曰く。臣が妻と。ひとりの郭汜が女房のもとへ[illegible]反間の計を用ひ。二人の賊を自ら害となるべし。帝のなまく。你がいふ所も計とぞめ。ぐらと。朕が苦しゝとゝろへ。密詔とて。楊彪が家へ。其妻を計とて教へて。郭汜がもとへいらしむ。妻すく計を受といたものゞとく。郭汜が女房さゝのぐり。ひそかに低語。郭将軍いはねは李傕の夫人を馴とめひそかたぐひの情あるく通ひ。ふかもりぬるとひたれば。女房大なおどろきあやしむ動もゝとゝろが。夜あるまゞ回りぬ。をほねよん元なく思ひし。さゝいうものありやすも知せのかりとく。数日を經りわる。李傕が方へ使あるく。郭汜

まねたるをゝ。女房諫めくゝ。李傕いかのあるとき人なり。古へより二雄なゝび立どゝ。やせぶらず。酒後に毒をんとゝ仕く。将軍を害ゝとゝもいかん。あゝ。油断しぶるとゝ。郭汜ら用ひゞ。何条李傕がさゝのんあるべきゝいとゝ。使ゝとも行。暮るおんと回りゝ。其後李傕が方へ食物を送りゝとゝ。女房ひそかに侍婢に命じ。毒を入れし。郭汜らゝと食んとゝ。女房諫めくゝ外へ来る食とゝ。ゝゝゝゝと喫とやあるとゝまだ犬にあるとゝを犬ちまちに死り。郭汜らゝすゝんの疑ひと起しゝるある日李傕に誘ゝを出と。終日に酒宴一夜に入く回りゝを俄に腹の痛甚しゝ。女房さゝらと毒にあるとりゝいと。

楊駈妻
郭汜妻
楊駈妻
郭汜妻
郭汜が女房と計る

急ぎ糞汁を飲せまゐ。吐瀉して痛苦む。郭汜たよりまき李傕と共に事を圖り。なげひよんをあはせて。長く富貴を受んと思へば。結句まきと害せんさえるまを早く手を出さざんんと。毒害せらるべしとて。手下の勢力を調のて。李傕を討ん用意となる。李傕此すきと聞て。おどろきて。郭汜いろ〳〵これを是のごとくまを急ぎ討て首を取んと。兵を引く推まを両旁の軍勢。端を長安の城下まで出あひへ乱とさんぐに戦うに。さのあひだに李傕が兄の子李暹といふもの。数千の精兵を率して内裏を圍む。車三輛を以て一はに帝と乘。一はに伏皇后と乘。一はに賈詡左霊二人と乘て。後宰門より出て。内侍官女をさんぐに。歩跣まで逃迷入

給て郭汜ぞと聞て急ぎ兵をまろ川に。後宰門に馳来り帝と取をらんとて。路とすがら切さえんぐに射まを死まるもの麻のごとし。李傕跡を追て以来り後とたんと掩殺しけまで郭汜はあの打負てさんぐに逃てる。李暹は天子を引立て烟を冒して。すぐに李傕が家まで入まりければ郭汜は兵を引て内裏へ宮嬪官女とを取て。一度に火とりけ。宮殿樓閣一宇も残らずとやき。次の日天子は李傕が家に囚まをあを聞て。郭汜を推よせまゐ。李傕打て出て戦う。射ちぐふる矢雨のごとく。鉄炮を逆ぎ〜ら。むるとて。蝗のさぶすりもちげ。郭汜は打負て退ぞれば李傕天子と車に乗て送りて郿塢

城に入れ奉る。帝弓箭のさらんと聞く。魂と失なひ。膽とひやしぬ。伏皇后御涙ぐ衣をしぼるまで。御車をぞ鄙塢に著くれば李暹一間ある處に帝と皇后とをおしこめ。びしゝ番を付く。内外の出入とゞめらるゝ。近侍の臣ども飢ふるしむ。帝人をやとして李傕に米五斛牛骨五具をとゝむ。めでひたまぶ。李傕大いに曰く。朝夕飯を献ずるに米と求めて何すゝ仕ふるぞと。口いやしくも魚肉を献ずる。帝ちまたと見ゆ。こゝに腐り損じぬ。臭きこと甚だしくしられぬ。御涙とゞめ難し。何ぞ是のごとく朕を欺むきしぬと宣ひけるを。侍中楊琦ひそかに奏して。李傕は辺境の夷なれば身いやしきものなれども。今日ことゝに背逆の罪と悔と快くの色あり。御駕を遷して黄白城に行幸なりぬ。しばらく辱しめを忍びたまへ。其罪を責めなほされば帝ゆえを呑む。哭き給ふ。近臣奏して。誰ぞ一手の軍勢よせ来り。天子をとゝひたまふ。いかゞ沙汰あると告げ奉る。帝人を出して見せしめたまふ。郭汜が勢なりとやいふ。帝いよいよ憂ひたまふ。門外に喊の声天に聞こえ。鼓の音地を動かす。李傕兵を引き。御座の廻りを守護し奉る。郭汜馬を出して呼はりて。逆賊李傕。何ぞ天子をおびやかしたてまつる。李傕が曰く。帝を守護したてまつる。你天子に向ひ弓を引く。真の逆賊なり。郭汜が曰く。你帝を此に推たてまつる。何ぞ。とゝやうに出ずして。

で。まきうるべし。汝とならさん。李傕ぐ曰く。無用の問答をせそ。多くの人を悩ますんすい。汝とまきを。猶身をしと勝負を決せん。郭汜ちきまぐ望むあるりとく。鎧と提さげて出れば李傕も刀をまいと馬を出し。十合あまり戦ふあるを太尉楊彪馬と打と馳来り。両将ちばらく戦ひを休めへるを群臣とともを和睦とちゝんを呼られば両方兵を収めて引退く。楊彪朱雋朝廷の大臣六十余人と伴るあて。郭汜ぐ陣中を行。和睦となりと戦を休めへをいいぐ兵へと下知しく群臣を捕へむ。群臣おそれを怕を是如何る故ぞを問を。郭汜ぐ曰く。李傕ぐ方を天子を捕へて質をと。ぐ方を群臣を質をせん楊彪言をあらしと。一人の天子を却やうし。一人の群臣を捕ぐいるる行ひどとひるをば郭汜剣を抜く斬んといるあるを中郎将楊密急をあしとぐるを。郭汜剣を収めて。楊彪朱雋二人を召るし出その餘の群臣とともぐくとくへあく楊彪外を出て朱雋を曰る我ホ社稷の臣をと。君を扶け世ををとあるを天地のあひだを生る甲斐あらんを。相いぐひく大を哭き昏絶と地を倒きるぐ家へりと。朱雋を病を裏と死をけりを。李傕郭汜毎日兵を出と戦ふ。五十余日を及び帝の両方の討死道路を横たはり。あるを屠所の肉のごとし。帝の日夜御涙とながし。侍中楊彪ひとを奏とるを。臣を賈詡ぐを見を。李傕を事と

無二の気色なれども其人いまだ君とまでは陛下御心を
残さど実を以て告べく彼は李傕を諫むべ帝点頭
して若わかの良あらく賈詡来りて帝近侍の人を退
ぞけく自ら地上に再拝して賈詡大なる過を拝伏して
臣罪萬死なれ軽しといひて帝宣ひけるは汝漢朝と
あらそんど朕が命と扶けよ賈詡頭首して臣ぐんう
ほどの情なく仕まつるあらど今ばらくの忍びを臣に
はく計とかくんさく退ぞひて出るより彩らくあて李傕
なぐれ刀と腰に横へ剣と腕に引き鉄の鞭と手に提さげく
あいしぐ来りて帝大に怖おのゝきて御顔のいろ土
のごとし内侍官直事なんぐと思ひて剣と帯て帝の御側に
立ちまぐ李傕ら来を怕れて郭汜惡逆と長ぐ主上
と刼やりくんとして某が守護をあらぐんが大なる難をあい
ぬんとひるを帝手を拱して汝と謝しぬべ李傕が曰く陛下かまいさは賢聖の君なりよく龍體
と保ちぬべく退ぐひて外に出て手下の大将を召で今内侍官が
剣と帯て立たるを害せんとの意なきを問に賈詡
若と何条さるひんぐん軍中なるを用んの力えるべしとひたまぐ
李傕ら来てよりくん疑ぐど
揚奉董承救御駕
帝日夜御心を苦しめひ僕射皇甫酈が辯舌に巧
なるも李傕郭汜と同郷のなるぞ行く二人の中と和睦せ

や　よと命じゝの皇甫嵩。まだ郭汜が陣へ行き。詔を述べまゐ。郭汜やうやうはるまなんぞ天子を惱ますべきならん。李傕の天子と旧のごとく出しゝるべ。はるまも群臣を放ちて戦ふを休んとまをす。と皇甫嵩。直ちに李傕が陣へ行はるまを西涼のものゝ。将軍と同國なるを伝へて。天子はるまを使さして。和睦のはかりを説めゆふ。郭汜いまとぞる勅命に順ぐり。将軍いかゞ咎へ出んとひるまで。李傕やうやうはるまを呂布を破りて後。とぞる四年のあひだ朝廷の政事を佐けて。三輔の郡縣平安なるとて天下誰らその功を知ざらん。郭汜い馬と盗む虜なるゆへ。いかでるまを並ぶべ。はるまを西涼に育ちまゐふ。我國の軍兵いかでの勇猛なるゆへ。郭汜が勢すり勝まるよあらんとも。

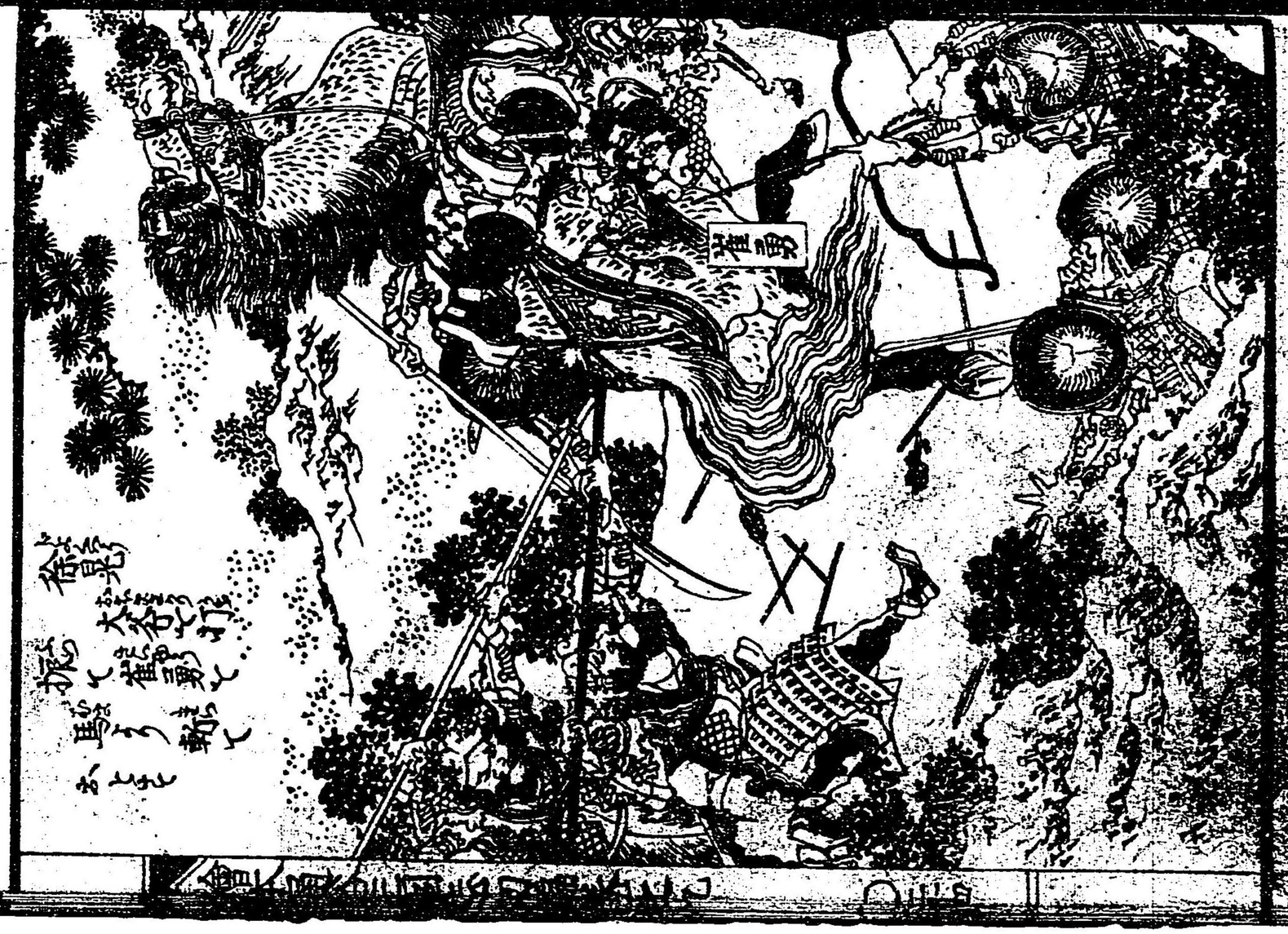
郭汜いま群臣を囚へて質とす。はるまいかるる惡虐ぞ。御辺いさだめぐ郭汜が方と引人るゆんとひるれい。皇甫嵩色を正しふゝやうるゝ昔し有窮の后羿といひ人。はるが強弓拠を頼とさして。恵難を思ふ。はるに自ら滅亡よるべ。ちゝはる董太師の強き君臣ゝる怖かのゝ呂布はるまをこゝろ。須臾の間ぐに首と高き竿さしあげゝり。是を伝てよく思へ勇ましく強ゝ伝の盛るある。将軍いま身。上将ゝと群臣の上に立。子孫権を握り。宗族寵に傲る。國家の爵禄其至極とはゝて。誰人か仰ぐざらん。今郭汜が群臣を捕へて質とする。将軍は天子を劫やうゝと質さしゝの。孰とる重ゝと。いはまゝとる軽ゝまを。よくゝはまを思ひまへ李傕ゝよいり剣を抜ヒトるゝ。初ハ天子

你を使さしと。汝まことに恥を与へゆふ。すでに你が首と斬と。その後に天子をまた徒さん是大丈夫のなすことく。とそこに斬んとけるを。騎都尉楊奉あしとゞめて。郭汜いまゞ滅びざるに勅使と。ちらしゐるが。郭汜四方に使をぬきて勅使を斬たる逆臣を伐さいつんまつるとそこに天下の諸侯。こゝに郭汜と助けて。将軍一人逆臣の名を得ゐんさいと。賈詡もはなはだ諫めて。李傕怒りと推へさ放ちゝる。賈詡をゝるゝ引て外に出しゝれば。皇甫酈大音あゞり。曰。李傕勅命を用ひず。漢の天子をらはさんとこゝる。ふをを篡逆のなすと呼ゝりるを。侍中胡邈しきりに思ひ急に用の言を出しと。自滅と求めゆゝるゝ。皇甫酈大に怒と曰く。你が朝廷輔佐の大臣なるに。ひとにかゝる諂らひと吐出せるを。久く漢の禄と食へり。君をゝ臣死をゝ。ら当然の理なり。いま李傕に。ゝらされんに天命のゝ。わなり何のふそゝとわらんとそ。さんぐに李傕と罵しりるまゝ。帝はのよしと聞ひく。いぐ裏すに思しに召いそぐ使と馳せ。皇甫酈と西涼へ。李傕が手下の勢力大半。西涼の兵をゝけれぐ。皇甫酈に回るゝ。李傕大逆無道に天理をむき。漢の天子をゝ。位と奪ゝとゝ。聞ゝこゝの内安らゝど。さゝの逆臣に従ぐふべきやなとゝ。あひる。拒ぬし賈詡ひそゝに諸軍勢に告と。天子すく你が忠義とゝひく。ゝぐらく暇を賜る。本国に回りと恩賞と待とゝ。

諸軍此を見て李傕と怨むこの多くして抜こを落行く。日を
経て皇甫酈が西涼へ回りくると告るものありて李傕大
に怒りて虎賁郎王昌に追付てらせいふ。されども王
昌も皇甫酈が忠義と感じて。むなしく中途より引返行
方なく失へりとぞ。賈詡ひそかに帝に奏して。李傕に
も官職を授けむへきと。帝これに従ひて。大司馬
に封じ。李傕にねんごろに左道の妖術とかの。軍中の巫女
を召て。鬼神を敬まひ祈りて。今大官を得てんよ。ならび
に巫女の鬼神に祈りて。験あらば。重く巫女に恩賞を与
へて士卒を恤れむとなりぶ。騎都尉楊奉に怒て。宋果
といふものに私語して。もし不ば。十死と出て一生に逢難に

中り在に打まく戦ひとなる。されども巫女にも及ぶ
ひまなく宋果が呼や李傕とらに。漢の天子を
とらへべ。楊奉が曰。御辺が中軍にあるべ。今夜の
二更に合圖の火をかげよ。ものの外にあるべ。及入べしと約を
定めて相ひ別れぬ。しかるに李傕らもこれを聞つけ。
まづ宋果を捕へて首を刎ね。楊奉が外にあるべ。時刻に
もあらぬと相待に合圖の火もなくてあれば。はやしん
とまざるわに思ひもよらず李傕急に及来りぬ。
楊奉大に怒て入乱て。四更のころまで戦ひ。
勢若干討れぬ。叶がたしと落行ぬ。此より李傕
が勢ひ次第に衰へぬ。郭汜日夜戦ひて。たがひに詰

なる軍兵多く血ながれて溝となり屍はんと山のごとし。かくて李傕郭汜が方へ使を遣わしてとりかへすべき御辺二人を董卓の讐と報じ志を併せて政事を摂ごらんと約せしよ。今同士軍と仕出で天子百官を擄よとうたいける所行ぞ。ともやらん軍と休と和睦しまへ。そもそも異儀よ及びるべ我ホ大軍と仕くべ。ともに軍をんとこの遣わしてまこと。李傕郭汜一儀ともいるべ。ともよ軍を放やり。張済表を上まりく。帝を弘農まで遷しまらんと奏しまこと帝大よよ驚いよ弘農まで遷らんと大なる幸なりとて。ともに張済と驃騎将軍よ封じ。張済使を遣わして。郭汜が内意を百官を放し出させ酒肴を送りて持参りて。李傕へ御車を求め出して行幸の用意をなし。旧の御林の軍をとりしたがへ。百人ばかりの長き戟を持せて。御車を守らせ。其夜まづ新豊まで到り。次の日の昏方よ霸陵橋を過ぎ。時秋の半ばなれば吹風も身よ入。御車をとめ。ふと忽まち喊のあらえ地を動かして。数百騎の兵橋の上よ蒐出で。車の見ゆるを何ものぞと呼びかけ侍中楊琦馬を乗出し。漢の天子還幸の御車なるぞ。狼藉とりなすと名乗りまこと聞て大将と思しきもの二人とこと出やりて。我ホ郭汜が命を受け是橋を固め。御幸の路を清めて。非常をいはめん為よりよりて。真の天子を見なりんと云しに。



楊璿なく御車の簾をかゝげしに帝宣まひけるは朕自ら
らよあり。你ホなんぞ退ぞざる。諸軍らまと聞と一同ょ蒐
歳と呼び左右よりれしく退ぞきれれば御車をとゞめ橋を
とゞめ。橋と固めたる勢ぞも馳へりく。右のあるもむきと告
ぐ。郭汜大ょ怒と曰。ものを天子を奪ひ取と。再び郡塢城ょ
籠り。又天下を手ょ握らんと思く。你ホょ橋と守らしむ。何き
と御車と通しるぞ。二人の大将とりて。某ホなぐ橋と守きを
ぞりの仰を兼く。帝と奪ひ奪れとり存意を知ざるべに。
路と開ひく通しりて。郭汜いよく怒りて張済と欺むひと
此大事と企ざはるわに。いかゞ通しるどもく。遂ょ二将の
首と刎怒ょ兵を率しと追くる。御車とゞめ華陰縣とゞ

るれょ。後より喊りたえあらく。追手の勢間ちく来り甚
車とゞまれとゞ呼りる。帝大ょ怖きむひ。とゞめ狼の喉を
のがれく。又虎の口ょ遇いぐぜんと宜い近臣皆涙とのがと。付ょ傍
らなる山の内ょ鼓のたえ天地と動くと。一彪の軍馬蒐いぐ。
大漢の楊奉と書くる旗とたてく。郭汜ぐ勢ょ打むふ元
来ホ催とえまとより。終南山ょ居たりし。天子と扶けま
らんとく。千余騎と率しと来きるより。郭汜らまと見く大
いよりに踊やぶりくとよと。崔勇といふものと真先よとふ
れば楊奉ぐ陣より。徐晃とまりやと呼りと大将一騎蒐
出大なる斧と仗く。崔勇と馬すり倒さるょ斬と落しなば
大勢の中ょ馳へく。縱横奔得ょ蒐しりぐ。郭汜さんぐょ

乱きたる二十里あまり引ちりぞく。楊奉盛と御さ。御車の前
ゑ頓首しまゐ。帝自ら車より下り。楊奉が手を執て。汝
危うきをたすけしこと。朕よく肺腑ゑ銘じたるとのたまふ。其
楊奉再拜して。恩と謝す。帝又さらゑ敵の大将を斬て。大勢
を破りしたの誰人ぞと御尋ねあるれば。楊奉一人の大将を車
の前ゑ拝せしめ。河東楊郡の人ゑ。徐晃字は公明と
申すの由奏す。御車を守護して。華陰の寧輯といふ
ゑいたりまゐ。将軍段煨といふ。衣服飲膳を献まつれ。
是夜は楊奉が陣ゑ御車を宿したり。夜あけて打たんと
とる。又郭汜が大軍追来り。四方をかこんで。さんざゑ戦ふ。
徐晃勇を振て防くといえども。小勢なれば力はたらきとどま

ゑ危うく見へたるゑ。一軍東の方より喊のこゑをあげて。賊徒を
十方ゑ蒐ちらす。徐晃救の勢来るゑんとよ。ゆゑに力を
奮て追立く。ゆゑに郭汜大半討ぬ。右往左往ゑ散
乱す。帝虎口を出てる御心地して。此大敵を追ちらせ。
朕とともにしたの誰人ぞと宣まゑ。一人錦の袍を被て。御
車の前ゑ再拝しまゐ。されを見ゑ董貴妃の父董承。
後馳の官軍を引来りて。さいるゑ賊軍を討破りぬと奏しを
帝大ゑ感あると。諸卿の難儀なりしことを語りて。御涙をながし
ゑ。董承奏しまゐる。臣楊奉と力をあわせ。是賊を滅ぼし
御運をひらきたまらんとて。御車をとりめぐらし。弘農まで入まゐ。
郭汜が敗軍を收めて引ちりぞく。李傕ゑあんとやまゐる。御迎

とするもとと元来恨むべきよりしよ。一旦事の変ようてたがひに合戦するおよべり。今ことごとく和睦せしむ。旧のごとくに交りを結びぬ。さるに身ろうへとちうるべし。天子ことごとく弘農まで入あり。楊奉董承御車を守護しと。手いとく戦うぶ。さて山東諸侯をあはせて我ホを伐へ。我ホ朝要害をたてさるもの。国この諸侯をあはせて我ホを伐へ。我ホ朝敵の名を得て。詐る力をあらはすべし。九族を滅ぼさるべ。いそぎ討ちひまうんさらひまぶ李傕白今張済長安よりといねぐ動うぶ。ときに御辺と兵をとそ。弘農よ推よせ天子をとらしさ。二人天下と分ち取んん。片時もいとげといのれぐらとあるを。路次の人民を掠掠し。在く所くるを火をはけて。塵とごとくも遺さぬ。飛ぐぐくるを追寛る。楊奉董承ちまと聞く敵長途と急いく来りぬ。ちまと人馬ちまたたちらん。躍ちらしてとくとくと東潤といふまぐ討て出。ちまく賊の勢と大よ戦う。李傕郭汜二人相隔ること十里。此ますます日と送ら。官軍いよく勇かさるらん。さるに備へを立て。大将と戦さん。矢軍とちまこまそ。うちの日間とちまを。日に打混の軍をして。相蒐りよ戦ん。官軍小勢なり。我ホ大勢なり。ものどる勝ぐといふとあらんとさっ李傕たりよ。郭汜右よあり。山よりひあり野と掩て。喊とはりさ。反蒐る。楊奉董承二手よりれて命と限りと戦うへぐも入るる。勢かなりうまぐ。遂よ残りとなる計さされ。天子皇后とをそ車よ乗をり。侍衛官官あらとぐ。ものさ。取ものるとりあつぐ。と逃そしる。符冊典籍

もこの道路にとどまりて馬蹄の塵に埋没して去れば残る兵士その引下りて防ぎ矢はなつまれり。御車とさて立て陝地の方へ落ちゆく。遂に諸々のまうしごとを奏し中せば。いそぎ河東へ勅使を施て。故の白波師の輿黨に李樂韓暹胡才を三人ありけるを前ころ罪と宥しみひ。兵と與へ官軍に力とをくはへとこれはなる。此ものどもい山賊強盗の張本なるをいへども。事急なるをもつてよもむくとはいへども呂布李樂ホ天子の罪を宥しゆるしと聞て。大いに怒りて四方の盜賊をのをあはせめて。やがて御迎に馳まゐり。李傕郭汜ハ路をふさぐ民の家を劫やぶりて。老弱なるを斬ころし壮なるを手下の兵にくわへ。是ホと先駆として敵死の軍と号し勢ひに乗て追蒐る時に白波師の山賊ども兵をひきいて官軍を助けると告げまゐ是等のもの共ハ。中すり山林にあはせ居て。慾心熾盛の溢れをもつてかなまゐ憍ふるものを乱あべしとて。郭汜士卒に命じて。衣服物の具をんどを路に捨ることをなる物を見てたがひにあらそひ取んとて。備へもつぐく乱れてゐる。李傕郭汜が大軍四面よりきたりて来り。勢ひ大山のくぼをくだるがごとくにて破れさんぐに討ころの杖とたのむ。楊奉董承ハ。先途と戦へども叶ふべくも思ハざりしかば。御車を扶けて北国の方へ落しゆく。跡より敵きびしく追ひ来れば。

尚弘
伏徳
皇后
楊奉董義帝を奪ひ皇后と守護して黄河をこゆる図
董義
楊奉
天子
李樂

李樂大音あげて曰く事急なり。天子御馬に召させ給へ。帝御涙とながし。朕は馬に乗べきなれども此内の官人といふとも忍びんと宣ひ跡とかへりみあへず追手の勢ひ近くぢうく来る。火を掛て喊と鬨をあげ戦いたるに大将胡才。敵にかこまれて討たれ官軍ことごとく逃げ去る。楊奉董承事の急なるを見て。御車とともに歩跣にて。兒角と黄河の岸まで来りぬ。李樂ホとその辺をしりまわりて。小舟一艘をかぢ出し。帝を渡し奉る。天子皇后と乗まらんとする前なる岸。あらし風のごとく峙ち。寒気甚しく。手足もちぢまり働くと帝は伏皇后と手に手を取て岸の上まで登りぬ

へども大波天をうつくんで騰ぬ。ほとりをふつとはらひ。後より鼓を打。鑼をならして敵の大勢追来る。楊奉大音あげて。馬の手綱をひく。天子の御腰を縛り舟へ乗らんとしたりけるに。皇后の兄伏徳といふ人。数十疋の絹を持来りて。ほとりを縛らんとひきまぶ。行軍校尉尚弘やくらまを仕て御腰を縛らんとする。天子と皇后とを絹をもつて舟の中へ乗る。李樂人と扶け乗。自ら剣を抜て舟の頭に立。乗おくれたるものどもは泳ぎ付て。乗んとするを乗まじとて。刀薙刀をもつて斬。あるひは手を切。指を斬。赤き

りく啼さけぶ。御舟はるかなる。壮の岸に著ぬ。楊奉民の家

よりて。牛車一輛たづねもとめ。帝を乗せまゐらす。大陽といふあたり。此日は供御をも献まゐらざりしを。晩よりなんを。尾屋のあるじげなる處に宿しまゐらす。その辺の百姓どもも。粟の飯をとりて。帝も皇后も麗粉よりと喰はせまゐらせ。終夜御涙をぞ。次の日李樂と伝北将軍に封じ。韓暹を征東将軍に封じ。ひたすら逗留あるべきとぞ。御車と假ごしにまゐらせ。大臣二人さぶらひ。太尉楊彪太僕韓融ばかりぞ。御涙をぞ。太僕韓融とりて。浩るあさましきことやうの臣どもとりて。李傑郭汜すく用ひ。ねがくは一命をとどめ。賊の陣に行あるべしとぞ。陛下すく

龍体を保せまゐらせ。泣く泣く後へ引くと是處に。日御車をとどめて。諸人の疲れを休めまゐらせ。太尉楊彪ばかりに。安邑縣に行く。假に皇居とかまへ。ちらちら諸国の官軍と御待あるべしとて。御車をそやめて。程なく安邑縣にいたる。さまざまの皇居とまゐらせ。家もなければ。わびしき屋の門戸もなく。四方に荆棘生ひ。ちらばりたる。帝と皇后とを入れまゐらせ。大臣荒草の中にあり。事を議して。李樂韓暹。元来山賊と業をして人を剥。民を劫やうして。世をすぐりしその人。軍の急なるに臨んで。御頼にありなんとぞ。御迎に出て。道の合戦に功労あるべし。二人に将軍の官を授けまゐらせ。さまざまに身卑しふして。禮義をぞ。俄に高官を得て

んよりなほさらび。猥りに脅と張て公卿大臣と帝の御前をもいまだに惡口し。打擲をほしいまゝに士卒とあはやく相撲と耳目を驚かすものを。二百余人あはやく。校尉に神主醫師なんとすべきものを。封ずるもあり。御史に封ずるもあり。將軍乃下吏あり。さらに封ずるもあり。御史に封ずるもあり。將軍乃下吏あり。さらに印と刻むすべも及ぶべ。錐をけずり文字を堀付其部曲乃章となる。あるひは濁酒麁飯なんどを奴婢に持せて直に天子に献ずる。帝は彼らが背うんとも口々に思ひ口々に毎事忍んと受ひる。諸國今年も飢饉して。百姓ことに粟とり。草と食と命とはぐ。餓死とるとの路と塞げり。河内の太守張楊米と肉と献まつり。河東の太守王邑衣服少く献まつりしに。帝は飢寒と免れ。董承楊奉相議して。人を洛陽に上せ。内裏と造りと後還幸あらんとこひ願ひたまへり。如何思ひたまへ。李樂さらに從ひ。董承曰く。洛陽は古しの都なり。是處は分内拔ずふしと事なりとして。やく洛陽に還幸あらんと。李樂いはく。你が洛陽に還幸あらんべ回まこと。是處へ來らん。楊奉董承兒角の間若しも及ぶと御車と守護してやぐく打立たまへ。李樂は俄うんの変ぶと。李傕郭汜は内惑し。天子と奪ひんとぞ巧こる。楊奉董承その意と推して御車とそやめ精兵と後陣に備へ。其關乃關とをえんとるわ。夜も四更乃ころとぞ。後より追手乃勢とせ來り。其車と止めよ。李傕郭汜ところ。聲くに呼びたりたまへ。帝とそじめまり。諸人膽と消し。怖き

まるまる。たゝか山の上より火をはけく。喊の聲四方よりおこりまぶ。楊奉ゝ〻〻〻何条李傕郭汜ぞ是ならんよりあるべき。是いな李傕李子樂ぞ詐りてるたるまぶるゝん其奴原あくぶ手痛あちく蹴ちらせとく。徐晃と真先よりまぶ李樂勢ひ乘ぞ蒐出。鎗と撚と戦うふと見へぐ。徐晃大なる斧と舞と馬より下より斬て落しふゝまぶ李樂二はるよりぬく失うりるるまぶ。路ひらけく。関所を御通りあるまぶ其関の太守張楊絹帛粮食と捧げく。軍道すぐ御迎よ弛参る。帝感あり。大司馬より封しゐひまぶ張楊恩と謝しまぶ。野王といふまぶ御車と駐めりる

繪本通俗三國志初編卷之九終

122
174
28

繪本通俗三國志

初編九

122
74
28